

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 元年 6 月 11 日現在

機関番号：14301
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2015～2018
 課題番号：15K02715
 研究課題名(和文) EAP技能統合型タスクの教材開発に向けた学習者の習熟度と目的の観点からのメタ分析

 研究課題名(英文) Meta-analysis of EAP and TBLT Literature for the Development of Integrated Task Materials: With Special Reference to Learners' Proficiency and Learning Goals

 研究代表者
 高橋 幸 (Takahashi, Sachi)

 京都大学・国際高等教育院・准教授

 研究者番号：50398187
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、先ず、EAP(English for Academic Purposes：学術目的の英語)とTBLT(Task-Based Language Teaching：タスク重視型言語教育)の先行研究のメタ分析により、統合型EAPタスクの妥当性をチェックするリストを開発した。次に、リストを満たすEAPタスクを組み入れた授業モデルを設計した。最後に、タスクで利用する教材や足場がけのための素材をオンライン上に構築した。授業モデルを実施し、教育効果を検証したところ、能力の向上や学習情意面での良い影響が確認できたが、学習者の習熟度に応じて、授業外においてさらなる足場がけが必要であることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の高等教育では、近年、EAP(English for Academic Purposes：学術目的の英語)教育が注目を浴びている。しかしながら、EAPとしての学習目標や学習内容などについて、妥当性に疑問がある実践も見つけられる。本研究では、先行研究のメタ分析に基づき、理論的かつ実践的な観点から、EAPタスクに必要な要素を記載したチェックリストを作成した。リストは、特定のカリキュラムに依存せずに利用できるものを目指した。このリストにより、適切なEAPタスクや授業を設計・実施したり、それらの有効性を検証できるようになった。さらに、リストはEAP教育の質保証の指標の一つとしての利用が期待できる。

研究成果の概要(英文)：In this study, we first developed an analytical checklist to assess the validity of skill-integrated EAP tasks by conducting meta-analysis of EAP and TBLT literature to clarify the definitions and characteristics of EAP tasks. Next, we designed a course which incorporates validated EAP tasks. We also created course materials (e.g., task sheets and rubrics) and resources to scaffold learners (e.g., reference links and tools). Finally, we integrated our course design into an online platform utilizing the materials and resources and asked 56 learners to study the content of this online course for 15 weeks. A third party's review of the course, as well as quantitative and qualitative analyses of learning outcomes and learner feedback showed that our course design could be effective for the improvement of learners' performance and their affective reactions. However, it was suggested that the use of out-of-class scaffolding be more facilitated according to the proficiency of each learner.

研究分野：外国語教育

キーワード：EAP タスク メタ分析 授業設計 教材開発 足場がけ プラットフォーム

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) EAP タスクに求められる要素の解明

日本の高等教育では、近年、学術目的の英語 (English for Academic Purposes: 以下、EAP とする) 教育が注目を浴びている。しかしながら、EAP タスクとしての望ましいレベルや学習内容などについて共通理解が持たれているとはいえ、妥当性に疑問のある実践も見つけられる。よって、Flowerdew & Peacock (2001)、Jordan (1997)、Hyland (2006) などの先行研究における EAP の定義に照らし合わせて、EAP の内容として妥当であるかどうかを検証する必要があると考えた。また、これまでタスクの分類について、Robinson (2011) はタスクの複雑さ、条件、難しさの 3 観点からの分類指標を提案しているが、Littlejohn (1998) は教科書タスクのための 52 の分析指標を設定している。これらのような先行研究のタスクの定義や条件を整理することにより、包括的かつ統一的に EAP タスクに必要な要素を把握することが可能であると考えた。

(2) EAP タスクの設計指標の必要性

タスク重視型言語教育 (Task-Based Language Teaching: 以下、TBLT とする) が、タスクのモデルとして広く利用されている。しかしながら、TBLT の導入事例に目を向けると、そのモデルに従って学習課題が設計されていなかったり、学習サイクルの一部のみに効果検証の焦点が当てられていたりなどして、一貫したタスク設計の枠組みが確立されていない。よって、EAP タスクの設計に資する統一的な指標を開発することが必要であると考えた。

(3) 日本人学習者に適した EAP 教材やリソースの不足

現在、日本人学習者を対象とした EAP 教材は十分にあるとはいえない。また、研究代表者らのこれまでの研究では、EAP タスクは英語運用能力の向上の点で効果があるが、一方で、設定されたタスクの要求が学習者の習熟度に対応していないと最適な学びの機会は得られないことがわかっている。そこで、EAP 教材を開発し、充実させていくことにくわえて、授業で同じ EAP タスクを実施する際には、個々の学習者の習熟度に応じた足場かけ (scaffolding) を準備しておくことが必要であると考えた。また、学習者がタスクを行う上で参考となるリソースや評価に必要なテストやループリックなどの充実を図ることにした。

2. 研究の目的

(1) 研究動向の把握

これまでの EAP や TBLT の理論研究や実践研究の動向について包括的な調査を行う。

(2) EAP タスクのモデル化と妥当性チェックリストの作成

先行研究のメタ分析を通じて、EAP タスクの特徴を明らかにし、教育効果の高いタスクの内容や条件を分析し、EAP タスクの典型モデルを構築する。そのモデルに基づき、EAP タスクの妥当性をチェックするリストを作成する。

(3) EAP タスクを導入した授業モデルの設計・実施・評価

妥当性が確認できた EAP タスクを導入した授業モデルを設計・実施・評価する。効果検証実験の結果に応じて、授業モデルの改善を行う。

(4) 教授者向けのプラットフォームの構築

EAP タスクとそれを導入した授業モデル、タスクで利用する教材、足場かけのための素材など、EAP 教授者が活用できる資料をプラットフォーム上で提供できるよう整備する。

3. 研究の方法

EAP 教育や教材の充実に向けて、以下の 4 つに段階的に取り組んだ。

(1) 国内外の EAP タスクに関する研究・実践事例の収集とタスクのタグ付け

国内外の EAP 教育の研究・実践事例を収集し、タスク分析の先行研究を参考として、学習目的、学習者の習熟度及び目標言語技能などの観点から、タスクの特徴についてタグを付与し、分類した。

(2) 研究・実践事例のメタ分析

タグ付けしたタスクをデータベース化し、メタ分析を行うことで、教育効果の高い EAP タスクの特徴を明らかにした。そこから、EAP タスクに必要なとされる要素や条件を抽出した。

(3) 授業モデルの設計と教育効果の検証

上記のチェックリストを満たす EAP タスクに基づいた授業モデルを設計した。次に、日本人大学生を対象として授業モデルを実施し、目標言語技能の向上や学習者の動機づけへの影響などに関して、モデルの効果を評価した。その後、モデルの改善を行った。

(4) 授業モデルや関連資料のオンライン化

EAP タスクと授業モデル、タスクで利用する教材 (タスクシート、視聴覚教材、ループリック、

テストなど), 足場がけのための素材(参照リンクやオンラインツールなど)などをオンライン上に構築した。

4. 研究成果

(1) EAP タスクの弁別的素性

研究代表者の所属先の図書館の論文検索システムを利用し, 国内外の高等教育機関における EAP や TBLT の先行研究を収集した。収集した研究・実践事例を検索・分析可能なものにするためのタグとして, カリキュラムにおける位置づけ(カリキュラムやコース全体における学習順や難易度順), 学習目的, 対象となる学習者の習熟度, 学習環境, 目標言語技能, タスクサイクル, 内容, 期待される教育効果, タスク実施上の課題, 学習者のタスクへの参加度, 教師の役割, 実際の学習・教育効果という項目を挙げる事ができた。

(2) EAP タスクチェックリストの作成

メタ分析結果に基づき, EAP タスクに必要とされる要素を記載したチェックリストを作成した。BALEAP (British Association of Lecturers in English for Academic Purposes) が策定した Accreditation Scheme の項目とチェックリストとの整合性を精査し, 特定のカリキュラムに依存せずに活用でき, かつ, 授業設計のプロセスの妥当性をより担保できるものとなるように改訂した。このチェックリストに基づいて妥当性を確認した EAP タスクを実践したところ, 目標言語技能(リスニングとライティング)が向上し, 学習者の情意面に対しても良い影響があることがわかった。

(3) 統合型タスクにおける足場がけの効果の検証

4 技能のうち, 複数技能の統合を要求する統合型タスクでは, 課題遂行のために高度な要求を課す場合が多く, 学習者の習熟度との間の乖離が指摘されている。その乖離を埋める適切な足場がけを検討するために, 講義視聴と筆記による要約を含む統合型タスクを実施し, その事前タスクとして 3 種類の異なる足場がけを学習者に提供し, 教育効果を比較した。その結果, 低習熟度の学習者にはトップ・ダウン型, 高習熟度の学習者にはボトム・アップ型の足場がけが効果的であることが示唆された。

(4) ソフトシステム方法論に基づく EAP 授業モデルの設計と改善

TBLT と教育設計学(インストラクショナルデザイン)を融合したソフトシステムのアプローチによって, 上記(2)の上記のチェックリストで適切性を確認した EAP タスクを導入した授業モデルの設計を行った。3 名の大学院生を対象としたパイロット調査の結果, 指示の不明瞭さ, ポストタスクやフィードバック方法の不備が明らかになった。それらを改善するとともに, 上記(3)の研究成果で得られた学習者の習熟度に合わせた足場がけを整備した。56 名の大学生を対象として授業モデルを実施し, 目標言語技能の向上, 学習者の動機付け, 授業モデルの適切性に関して検証を行ったところ, 高い教育効果が認められたものの, 授業外の足場がけが改善点として明らかになった。このことから, 日本人学習者を対象とした EAP 教育実践では, 各学習者の習熟度や理解度に応じて, 授業外でも利用できる足場がけや支援を充実させる必要があることがわかった。

(5) 教授者向けのプラットフォームの公開に向けた準備

研究代表者の所属機関で利用されているコースマネージメントシステム上に, 教授者が活用できる EAP タスク, 授業モデル, タスクで利用する教材, 足場がけのための素材を構築し, 公開に向けて準備を進めている。なお, 当初は任意の学習目的, 学習者の習熟度, 目標言語技能などを指定すると, 最適な EAP タスクや授業モデル案が自動的に提示される仕組みにする予定であったが, 自動化が技術的に難しく, 現在は学習目的や学習者の習熟度, 目標言語技能などの情報に基づき, 各タスクや授業モデルをラベリングして, リストアップする形式で公開する予定である。また, 学習者の習熟度に合わせた授業内外の足場掛けの充実に向けて作業を行っている。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 7 件)

マスワナ紗矢子・渡寛法・飯島優雅・渡辺敦子・高橋幸・金丸敏幸・田地野彰・寺内一, 「日本における EAP 教員コンピテンシー枠組み構築の試み BALEAP 学会による枠組みの日本語試訳を通じて」, 『JAAL in JACET Proceedings』, 査読有, 1 号, 2019 年, 46-51.

http://www.jacet.org/JAAL_in_JACET_Proceedings/JAAL_in_JACET_Proceedings_Volume1.pdf

細越響子, 「技能統合型タスクにおける足場がけの教育効果」, 『月刊英語教育』, 査読無, 10 月号, 2018 年, 70-71.

桂山康司・高橋幸・金丸敏幸・笹尾洋介・ティモシー スチュワート・デビッド ダルスキー・田地野彰, 「京都大学における英語教育改革 ライティング - リスニングコースに焦点

を当てて」,『京都大学国際高等教育院紀要』, 査読無, 1号, 2018年, 111-121.
<https://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/pdf/link/link0870.pdf?1554802108>
 Hosogoshi, K., Effects of captions and subtitles on the listening process: Insights from EFL learners' listening strategies, *The JALT CALL Journal*, 査読有, 12(3), 2016年, 153-178.
<https://files.eric.ed.gov/fulltext/EJ1125240.pdf>
 Hosogoshi, K., Kanamaru, T., & Takahashi, S., Scaffolding skill-integrated tasks for academic English: With special reference to students' proficiency, 『京都大学高等教育研究』, 査読有, 22号, 2016年, 21-30.
<http://hdl.handle.net/2433/219554>
 飯島優雅・渡辺敦子・マスワナ紗矢子・渡寛法・堀晋也・高橋幸・金丸敏幸・田地野彰・寺内一, 「日本の大学における学術英語カリキュラムの現状と課題 実態調査結果を踏まえて」, 『京都大学高等教育研究』, 査読有, 22号, 2016年, 96-98.
<http://hdl.handle.net/2433/219546>
 Hosogoshi, K., & Takahashi, S., The use of integrated listening, reading, speaking and writing tasks on students' productive skills in a university EAP course, *Journal of the English for Specific Purposes Special Interest Group (IATEFL)*, 査読有, 45, 2015年, 22-30.

〔学会発表〕(計 16 件)

マスワナ紗矢子・高橋幸・金丸敏幸・笹尾洋介・田地野彰, 英語学術論文執筆に必要な技能と知識 英語教員の視点から, 第192回東アジア英語教育研究会, 2018年.
 Hosogoshi, K., Takahashi, S., & Iijima, Y., An analytical checklist for validating EAP writing courses, The Second International Conference on English Across the Curriculum, 2018年.
 マスワナ紗矢子・渡寛法・飯島優雅・渡辺敦子・高橋幸・金丸敏幸・田地野彰・寺内一, 日本における EAP 教員コンピテンシー枠組み構築の試み Competency Framework for Teachers of English for Academic Purposes の日本語版作成を通じて, 第1回 JAAL in JACET 学術交流集会, 2018年.
 Hosogoshi, K., Development and validation of skill-integrated tasks in EAP contexts: A focus on input processing facilitation, The 57th JACET International Convention, 2018年.
 細越響子, 文法解析タスクを活用した聴解指導の実践, JACET 北海道支部 2018 年度支部大会, 2018年.
 飯島優雅・田地野彰・高橋幸, EAP 調査特別研究最終成果報告 カリキュラム実態調査結果と示唆, ESP 1 Day Conference at Takachiho University, Tokyo, 2018年.
 田地野彰・桂山康司・高橋幸・金丸敏幸・笹尾洋介・細越響子・加藤由崇, これからの英語教育 質保証にむけて, 第181回東アジア英語教育研究会, 2017年.
 飯島優雅・増山みどり・深尾暁子・高橋幸, 大学英語教育の質保証に向けた EAP カリキュラム運営, The 56th JACET International Convention, 2017年.
 Iijima, Y., Watanabe, A., & Takahashi, S., EAP education in Japan: Towards developing a quality assurance framework, Faces of English 2: Teaching and Researching Academic and Professional English, 2017年.
 細越響子, TOEFL iBT を通した高校生を対象とする英語発信力育成の試み, CIEE 教育者セミナー, 2016年.
 田地野彰・桂山康司・高橋幸・笹尾洋介・渡寛法・加藤由崇, これからの英語授業を考える, 第170回東アジア英語教育研究会, 2016年.
 金丸敏幸・大久保雅司・八木智裕, OPIc 導入によるスピーキングに対する意識変容の分析, The 55th JACET International Convention, 2016年.
 飯島優雅・渡辺敦子・マスワナ紗矢子・渡寛法・堀晋也・高橋幸・金丸敏幸・田地野彰・寺内一, 日本の大学における学術英語カリキュラムの現状と課題: 実態調査結果を踏まえて, 第22回大学教育研究フォーラム, 2016年.
 細越響子・金丸敏幸・高橋幸, 大学英語教育における統合型タスクの実践と工夫 レベルに応じた足場かけの提案, 第22回大学教育研究フォーラム, 2016年.
 田地野彰・金丸敏幸・高橋幸・笹尾洋介・加藤由崇・坂本輝世・ピアース ダニエル, 産出技能の育成に向けた新しい英語指導の取り組み, 第159回東アジア英語教育研究会, 2015年.
 細越響子, 日本人大学生の英語聴解力育成に向けた技能統合型タスクの検討, 京都府立大学英文学会第7回大会, 2015年.

〔図書〕(計 5 件)

Tajino, A., Smith, C., & Kanamaru, T., Springer, *A systems approach to language pedagogy*, 2018, 1-10.

Hosogoshi, K. & Takahashi, S., Springer, *A systems approach to language pedagogy*, 2018, 83-98.

Kanamaru, T., & Pearce, D. R., Routledge, *A new approach to English pedagogical grammar: The order of meaning*, 2018, 83-94.

Takahashi, S., Pearce, D. R., & Dalsky, D., Routledge, *A new approach to English pedagogical grammar: The order of meaning*, 2018, 103-115.

Hosogoshi, K., Hidaka, Y., & Pearce, D. R., Routledge, *A new approach to English pedagogical grammar: The order of meaning*, 2018, 137-147.

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：金丸 敏幸

ローマ字氏名：(KANAMARU, toshiyuki)

所属研究機関名：京都大学

部局名：国際高等教育院

職名：准教授

研究者番号（8桁）：70435791

研究分担者氏名：細越 響子

ローマ字氏名：(HOSOGOSHI, kyoko)

所属研究機関名：京都府立大学

部局名：文学部

職名：准教授

研究者番号（8桁）：40750576

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：